

特集

防災のススメ

■問い合わせ 危機管理係 ☎093-293-1286

「防災」と聞くと難しく感じ、あまり対策が進んでいない家庭もあるのではないのでしょうか。しかし、最近の状況をみると、災害は日本で頻繁に起きているので、災害から自分自身や家族の命を守るためには、防災への取り組みが必須です。

今回は、防災士として地域で活動を広げている手島 澄人さんに、その活動の原点や防災について考えるポイントを聞きました。



Interview

手島 澄人さん

区長在任中に防災士の資格を取得。日本全国で50人程度しかいない「DM1認定講師」の知識を生かし、防災士や「日本防災士会 福岡県支部」副支部長として活動中。

1 防災士になったきっかけは？

区長をしているときに、住民の安全・安心な暮らしのために何かできることはないかと考え、防災士を目指しました。

2 防災士としてどのような活動をしている？

「防災士」の資格取得はあくまでスタート。さらに知識を広げるため、「日本防災士会」主催の講師養成研修会に参加し、DM1認定講師^{*}になりました。

また、防災の知識や手段は日々見直しが行われているため、各種研修会に毎月参加し、新しい知見を得ています。

本格的な活動は始めたばかりで、学童支援員への講話や防災イベントへの参加、近隣の自治体職員と意見交換などを行っています。

今後は、多くの人へ防災についての知識を伝え、輪を広げていきたいです。

*DM1認定講師とは、日本防災士会が主催する研修を1年間受講・修了し、防災・減災に関する知識とプレゼンテーション能力を持つと認められた防災士のこと。

3 町民の皆さんに確認してほしいことは？

まずは、自宅がどのような場所にあるのかということです。

川の近くだと「水害」、山が近いと「土砂崩れ」など、立地によって異なるリスクを知ること、注意点がはっきりします。

4 何から準備したらいい？

まずは備蓄品！「持ち出すもの」と「備蓄しておくもの」を分けて準備しておきましょう。

たとえば、災害時には1日に一人当たり3Lの飲み水が必要といわれており、4人家族だと12Lにもなるので持ち出すことは困難です。

状況にもよりますが、備蓄品は落ちていたら取り戻せることもできますので、その中でも災害発生後すぐに「持ち出すもの」を意識してみてください。

また、「備蓄しておくもの」も一般的なものだけでなく、それぞれの生活スタイルや持病などに合わせたものを含めてリストを作り、準備してほしいです。

5 防災士になって気がついたことはある？

防災士として多くの人と話す中で感じることは「意識の差」。しっかり考えている人とそうでない人がはっきり分かれてしまっています。

「防災」の範囲はとても広く深いので、いきなり全てを知るのは難しく、私自身も全て把握しているわけではありませんが、防災意識があるかないかで災害発生時の動きは全然違います。

少しずつでいいので、防災に意識を向けてほしいと思っています。

6 一番大事なことは？

伝えたいことはたくさんありますが、災害が起こったときに一番大事なことは「自助」と「共助」です。役場などの公的機関による「公助」は最後の砦。阪神・淡路大震災では、救助された人の95%以上が、自力もしくは近所の人や通行人に助けられたというデータがあります。

災害発生後、状況が落ち着いてくれば、公助による支援も充実していくはずですが、まずは地域の力で乗り切るために、地域の防災力を磨く必要があります。

7 防災力を磨くカギは？

地域の防災力を磨く“最初の一步”は、訓練に参加することです。

実際に避難所まで歩いてみることで、道の狭さや段差など、地図上では見えない課題が見えてきますよ。

また、遠賀町では、毎年それぞれの自治会で訓練をしていますので、参加することは地域のつながりを強める機会にもなります。

訓練に参加した人ほど、災害時に落ち着いて行動できますし、顔見知りが増えると、災害時の助け合いがスムーズになるんです。

8 今後の展望は？

若い頃には、被災地でボランティアとして活動したこともありましたが、今は歳を重ねて体力もなくなってきて、力仕事はできないので、今後は防災意識の向上に力を入れていきたいと考えています。

最近では、災害を防ぐ「防災」だけではなく、いかに被害を減らすかという「減災」という考え方も大切になっていますので、日々災害に関する勉強をして、地域の皆さんに広めていきたいです。



手島さんからのメッセージ



災害時には、家族だけでなく、近所の人との助け合いや連携が大きな力になります。大切なのは、地域全体で備えるという視点。日頃から自治会活動などに参加しながら、地域で顔を合わせ、情報を共有し、訓練に参加することで、いざというときに支え合える関係が生まれます。

防災力は“自分ごと”にした瞬間から強くなります。訓練に参加することが、あなたと大切な人の命を守る第一歩です。災害に地域全体で備えるためにも、ぜひ一斉避難訓練に参加してください。

6.6 土

8:30-12:00

もしも 考えよう! 備えよう! / いざ

町内一斉 避難訓練

●事前準備

- 備蓄品のうち「持ち出すもの(防災リュックなど)」の内容を確認し、用意する。
- 遠賀町防災ハザードマップで、自宅から指定避難所までの避難方法や避難ルートを確認する。

●当日のタイムライン・要領

- 8:30** 町内で最大震度7の大地震が発生
- ガスの元栓を閉め、戸締りなどを確認する。
 - 近所の人と互いに声を掛け合い、なるべく複数人で避難を実施する。
 - 「避難経路に注意箇所はないか」「避難ルートは適正か」を検証する。
 - 避難方法について、徒歩・自家用車それぞれのメリット・デメリットを考える。
- 10:00** 避難指示の発令
避難所の開設
- 11:30** 避難指示の解除
- 12:00** 訓練終了

遠賀町
ホームページ



避難所に行かない人は、自宅などで3つの安全行動「低く」「頭を守る」「動かない」を1分間程度行うシェイクアウト訓練を実践してみましょう。



●訓練場所

- ▷ 町内地区公民館
- ▷ 町内中学校体育館・グラウンド
- ※ 中学生と遠賀町消防団・遠賀郡消防本部の合同訓練を予定しています。
- ※ 中学校は授業中のため、一般避難者の受け付けは行いません。